

### 第3学年国語科学習指導案

高山市立花里小学校  
授業日 平成17年6月3日  
授業者 上出武則  
場所 3年組

- 1 単元名 順序が分かるように、話したり聞いたりしよう
- 2 教材名 道あんないをしよう
- 3 指導にあたって

(1) 教材について

3年生・4年生の「話すこと聞くこと」を、指導要領では、

<p>目標 ・相手や目的に応じ、調べたことなどについて、<u>筋道を立てて話すことや話の中心に気をつけて聞くことができるようにするとともに、進んで話し合おうとする態度を育てる。</u></p> <p>内容 ・話すこと・聞くこと的能力を育てるため、次の事項について指導する。 ア 伝えたいことを選び、自分の考えが分かるように筋道を立てて、相手や目的に応じた適切な言葉遣いで話すこと。 イ 話しの中心に気をつけて聞き、自分の感想をまとめること。 ウ 互いの考えの相違点や共通点を考えながら、進んで話し合うこと。</p>
---

ことと記してある。小学校中学年では、「筋道を立てて話す能力」と「話の中心に気をつけて聞く能力」を育成し、「進んで話し合おうとする態度」を育てることを主なねらいにしていることになる。ここでいう「話すこと・聞くこと」の学習は、「話すこと・聞くこと」の力をつけることをねらいとした学習の場を意味している。したがって、話し合いをすることによって文章の内容を読み深める、話し合いで焦点化されたことを文章に書くというような活動は、含まれていない。

そうしたねらいを実現していくこと。そして、国語科の学習で身に付けた言語活動を、日常生活の中で豊かに発揮することができることで、生きて働く言葉の力となるという考えから、国語科の学習の中で、具体的な相手や目的を設定し、その「相手や目的に応じて」話したり聞いたりする一層具体的な活動が展開されることを必要としている。

「道あんないをしよう」の前半は、教科書の絵地図をもとに森さんの道案内の問題点を見つける学習、後半は、絵地図を活用して別の場所の案内を練習したり、自分たちの町の道案内を練習したりする学習で構成されている。

森さんの道案内の問題点を見つける学習では、引っ越してきたばかりの谷川さんに花園児童館の場所を教える設定になっている。引っ越してきたばかりということは、まだ地域のことをよく知らないという設定であり、まだ地域のことをよく知らない相手に、目的地である花園児童館の場所を教えることになる。困っているだろうと予想すると、何とかして目的地にたどり付けるようにしてあげたいと願う森さんだからこそ、自分が知っていることを相手に分かるように伝えたいと言葉を選ぶことになる。

こうした設定は、後半の練習場面でも条件として出され、年下の子供が相手だったり、大人が相手だったりする。これは、相手にわかってもらおうとする中に、相手に応じた話し方を求めていることになる。相手や目的に応じて、丁寧な言葉を選んだり、敬体と常体の表現を使い分けたり、適切な声の大きさや早さなどに気をつけたりすることなど「相手や目的に応じた適切な言葉遣い」を身に付けることをねらったものである。

谷川さんに道案内をする場面では、同級生だけれども引っ越してきたばかりの相手に話すために、少し丁寧な表現をしているが、敬体にはなっていない。

この教材の後、3年生では、「進んで話し合い、発表しよう」を学習する。その内容には、直接人に会ってインタビューする活動の方法が示されている。

「道あんないをしよう」から「進んで話し合い、発表しよう」の学習を進める中では、話すときには、自分が伝えたいことを相手によくわかるように話すこと、聞くときには、大事なことを落とさずに聞くことを繰り返し学習する必要がある。「よくわかる」ように話すことの内容や「聞く」ための視点や技能を段階的に身につけていくことが臨まれている。

## (2) 児童の実態

3年1組は、男子14人、女子14人の学級である。自己主張の強い児童が多く、自分の考えがもてたときには、自分の意見を聞いてほしいと必死に挙手をする。また、仲間が意見を出すときには、仲間の話の途中でも「つぶやき」仲間の話の最後まで話を聞ききることができない児童が多い。そうした場合には、途中で話し手の妨害をしないことや、最後まで聞かないと聞きたいことが伝わらないことを児童に語り、体ごと話し手に向き、最後まで話しを聞くことを指導してきた。

自分がまず先に発表したいと思っているのは、クラスの人数の半数にも満たない。それ以外の児童は、間違えたくないと考え、挙手を渋りだしている。また、一部の児童は、理解するのに時間がかかり、自分の意見を持つことができず、発表までに至らない場合が多い。学習が一部の児童の発言だけでつながらないように、意見をまとめる時間を設定している。そこでは、班で頭を寄せ合い、相談できるように指導してきた。授業中、自分の意見が出せるように、周りの仲間に相談を持ちかけ、自信を付けて発表につなげさせようとねらったものである。

発表が苦手な児童でも、授業に参加したいと思う部分は強い。一問一答式のようなクイズやゲーム形式で問題を問うものなどは、多くの児童が意欲的に参加し、積極的に挙手をして自分が思いついたことを発言しようとする。「分かることは楽しい」と感じている児童の様相にあった学習過程を組むことで、意欲的な学習姿勢と学び方の定着を図っていきたい。

児童の会話を聞くと単語での会話になりがちの部分がある。たとえば、「先生、見えん」である。これを詳しくすると「先生、先生が黒板の前に立って、文字をかくしているのだから、私から黒板の文字が見えません。移動していただけますか」となるが、出てくる言葉は、「先生、見えん」となる。「道案内をしよう」の前の教材には、「くわしくする言葉」がある。その教材の中での指導によって、「文の意味をくわしくする言葉を修飾語」とであると定義し、修飾語のいろいろを学習してきた。また、主語と述語を確実に位置づけ、修飾語を反対の意味や似ている意味の言葉から選んで文章を作る体験を通して、語彙を増やす指導を行ってきた。その結果、言葉の順序性や、相手を特定した話が意識されてきている。しかし、相手に合わせて、常態や敬体などの言葉を選んだり、相手が分かるように話したりする部分にまではいたっていない。むしろ、自分が思っている一部分を伝えたいだけになっていることが多く、主語がぬけるときさえ有るのが現状である。

## (3) 指導の立場

「話すこと・聞くこと」の指導では、伝えたい内容が伝わるように、目印や数、順序を話す内容に織り込んで話すことができることや、伝える順序を間違えずに話すことができること。さらには、相手の立場を理解し、言葉遣いを考えさせることをねらっている。また、話を聞くためには、相手が言っていることをもらさないように聞き取る必要がある。そのために、地図を活用し、相手の言っていることをメモし、話の内容を汲み取っていけるように、メモを取りながら、聞く（漫然と聞く）から聴く（聞き分ける）、そして訊く（たずねる）へと展開する学習活動を行っていきたい。

よくわからない点をそのままにするのではなく、たずねさせることによって、聞く側も話す側も、話の内容をより分かりやすくさせたいと願うからである。

今回の学習では、道案内をゲームとしてとらえ、相手に分かるように、くわしく、相手に応じた話し方をしていくことを行うが、その過程で、伝える内容をどうとらえたらよいかを学級全体で一斉に話し合う部分と、小グループやペアで話し合い、評価しあうことで、話すことをつかませる部分によって、伝える目的や事柄を明確にして話ができるように指導していきたいと考えている。

## (4) 研究主題に関わって

研究主題「意欲をもち、相手に伝わるように、自分の思いや考えを表現する能力の育成」

～話す・聞く領域を中心とした国語科学習～

研究内容 「単元づくりの工夫」について

研究構想図具体方途 - 「単元全体の見通しをもった学習計画を基にした課題設定を行う。」

単元の構造を 道案内の仕方を知る 道案内の仕方を学ぶ 道案内を行う 条件を増やして道案内を行うと設定した。それは、筋道を立てて話す相手を、第1段階は、同級生と捉え、同級生に伝えられるようになったら、年下、大人、お年寄りと条件を増やし変えていくことで、話し方を学ばせようと考えたからである。また、児童の実態から、段階的な指導が必要と考え、同級生への道案内を、「道案内の仕方を学ぶ 道案内を行う」の2時間構成で捉え、話し方・聞き方の定着を願った。

研究内容 「学習活動と指導・援助の工夫」について

研究構想図具体方途 - 「意図的・効果的なペア交流，グループ交流を仕組む」

道案内をすることを技能として考えると，その技能を知り，学んで，使えるようにする場が必要になる。そこで，ペア交流，グループ内交流を技能を身に付ける場と捉え，繰り返し練習を行い，話し合いによって質を高めることを行おうと考えた。そうして身に付けた技能を，試し，磨く場として，グループ外ペア交流を設定した。

研究内容 「仲間の良さや自己の高まりに気づく評価のあり方」について

研究構想図具体方途 - 「解決したことや仲間から学んだことを振り返り，自己の姿を確かめる場を設定する。」

話し手の話の内容を比べながら聞くことができれば，その話し手の良さや優れている点を知ることができると考え，相手の話が分かったのか，分からなかったのか。どこがくわしかったのかを話し手の発言の後に位置づけようとした。分かったか分からなかったかは，地図上で道順を追うことで表現できるようにした。また，どこがどうくわしかったかは，学習カードに記入することで，記憶することとした。

4 単元の目標

道案内ゲームを通して，相手によく伝わるように順序よく話したり，大事なことを落とさずに聞いたりすることができる。

道案内で大切なことを考え，相手に正確に伝わるように順序よく適切な言葉遣いで話す。(話す)

話の中の大事な言葉や順序に気をつけて聞く。(聞く)

その場の状況や目的に応じた適切な音量や早さで話す。(言語の力)

相手やその場の状況に応じて丁寧な言葉で話す。(言語の力)

5 単元の評価規準

ア 国語への関心・意欲・態度	イ 話す・聞く力	ウ 言語についての知識・理解・技能
目的地まで，相手を案内できるように，目印や方向を示し，話したり，聞いたりしている。	相手に伝わるように筋道を立て，相手に応じた言葉遣いで話している。 相手が伝えたいことをメモをするなどして，正確に聞き取っている。	相手に分かりやすい速さや音量で話している。 相手が分かる言葉や分量を考えて話している。 ていねいな言葉遣いで話している。

6 単元の5つの言語意識

相手意識	目的意識	場面・状況意識	方法意識	評価意識
学級の同級生 年下の子 お年寄りや大人	町のことにくわしくない人々に道案内をする。	道が分からない相手だからこそ，言葉を選び，分かりやすくする。	特徴を捉え，順番に従って話したり，聞いたりしている。	目的とする場所に迷わずたどり着けたか。